

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

海と風の銚子みなと町活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県

3 地域再生計画の区域

千葉県銚子市の全域（名洗港、外川漁港）

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現況

銚子市は千葉県の最東端に位置し、沖合は水深 200m の大陸棚が広がり、北上する黒潮と南下する親潮、そして利根川の流入による交錯で日本有数の好漁場を形成していることから、全国屈指の水揚げを誇っている。

また、風光明媚な自然や歴史的文化的遺産などにも恵まれ、最東端には日本で一番早く（富士山頂、離島を除く）初日の出を拝める犬吠埼や「日本の渚・百選」にも選ばれた君ヶ浜などの美しい海岸、平成 28 年 3 月に国の名勝と天然記念物に指定された「東洋のドーバー」とも称される屏風ヶ浦、マリーナなどの海洋性レクリエーション拠点が充実しており、多様な地域資源を保有している。

加えて、令和 2 年 7 月には銚子市の南沖合の海域が再エネ海域利用法に基づく「促進区域」に指定、令和 3 年 12 月には、国より発電事業者が選定され、千葉県では国、市及び発電事業者とともに、洋上風力発電の導入に向けて事業を進めているところである。洋上風力発電事業は、風車の部品製造やメンテナンスなどで地元企業の参入が見込まれるとともに、海に風車が立ち並ぶ景観を新たな観光スポットとし、既存の地域資源と融合させた新たな観光メニューの開発等を行うことで、更なる観光振興が期待される状況である。

この様な中で、銚子市の東南端に位置する名洗港は、洋上風力発電設備の建設補助港やメンテナンス港としての活用が予定されているとともに、将来的には周辺の漁港から水揚げされた魚を用いた水産加工品等を名洗港から移出することが計画されている。併せて、名洗港は荒天時における漁船等の避難港としても位置付けられている。

また、銚子市の東南端に位置する外川漁港では、マダイやヒラメなどが水揚げされ、特に、キンメダイは「銚子つりきんめ」と呼ばれ、高級ブランド魚として全国的に有名である。

海洋再生可能エネルギーの導入促進及び漁港・漁場施設の整備促進は、令和 2 年 11

月に改訂された千葉県地方創生総合戦略において、地域経済の好循環を生み出す環境づくりに必要な項目として位置付けられている。

4-2 地域の課題

銚子市の人口は昭和 30 年代から昭和 40 年代のピーク時では約 9 万人であったが、以降は急激な減少を続け、令和 3 年では約 5 万 7 千人となり、人口減少に歯止めがかからない状況である。この様な状況下において、産業・観光振興及び漁業の振興などを契機として、交流人口の増加を図ることにより、地域の活力を維持することが喫緊の課題となっている。

産業・観光振興及び漁業の振興などを図る上で基盤となる名洗港及び外川漁港については、それぞれ下記の課題を抱えている。

名洗港では、航路・泊地の埋没や港内静穏度の不足が生じていることから、港湾施設の機能強化のほか、周辺の漁港から水揚げされた魚を用いた水産加工品等の海上輸送拠点としての機能強化も必要となっている。

外川漁港では、港内の静穏度が不足しており、漁船の安全な出入港に支障をきたしていることに加え、施設の老朽化が進んでおり、安全性の確保、漁獲機会の増大、漁業活動の円滑化を図る上で施設整備が必要となっている。

4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、名洗港と外川漁港を一体的に整備することで、銚子市の強みである漁業の振興を図るとともに、地元で獲れた魚を用いた水産加工品を生かした地域振興事業や既存の地域観光資源と洋上風力発電事業による、新たな観光スポットにより、観光振興・水産振興を促進し銚子地域全体の活性化を図る。

(目標 1) 銚子市における観光入込客数の増加

1,748 千人/年 (令和 3 年) → 2,400 千人/年 (令和 9 年)

(目標 2) 外川漁港における漁獲量の確保・維持

553t (直近 3 ヶ年 (平成 29 年～令和元年) の平均) → 553t (令和 9 年)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

名洗港は、防波堤や防砂堤等を整備することにより、洋上風力発電の維持管理拠点を形成、水産加工品等の海上輸送拠点としての機能を確保するとともに、荒天時や防災時に避難してくる周辺漁港の船舶や、洋上風力発電関連船舶の安全係留を実現する。

外川漁港は、防波堤整備により港内の静穏度を向上させ、出入港時の安全性の確保及び漁獲機会の増大を目指す。また、護岸整備により船揚場や臨港道路を波浪等から防ぎ、安定した漁業活動の確保及び就労環境の改善を実現する。

これらの取り組みにより、産業・観光振興及び漁業振興の基盤整備がなされるこ

とにより、交流人口の増加を図り、地域活力の維持を目指す。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生港整備推進交付金【A3010】

【施設の種類の事業主体】

- ・港湾施設（名洗港） 千葉県
- ・漁港施設（外川漁港） 千葉県

【事業期間】

- ・港湾施設 令和5年度～令和9年度
- ・漁港施設 令和6年度～令和9年度

【整備量】

- ・港湾施設（外郭施設・係留施設・水域施設）
- ・漁港施設（外郭施設）

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

【事業費】

- ・総事業費 4,730,000 千円
- ・港湾施設 4,080,000 千円（うち交付金 1,621,333 千円）
- ・漁港施設 650,000 千円（うち交付金 325,000 千円）

【事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法】

	(令和/年度)	基準年	R5	R6	R7	R8	R9
指標1 名洗港の観光船の利用者数 (人/年)		2,113	2,250	2,390	2,520	2,660	2,800
指標2 外川漁港の登録漁船数 (隻)		89	89	89	89	89	89

毎年度終了後に千葉県の職員が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

【事業が先導的なものであると認められる理由】

(政策間連携)

名洗港及び外川漁港を一体的に整備することにより、銚子の強みである漁業の振興が図られるとともに、観光振興にも繋がり、銚子市全体の活性化が図られる。

名洗港の港湾施設の整備は、千葉県国土強靱化計画に明記された事業である。

(デジタル社会の形成への寄与)

ウェアラブルカメラ等を活用した遠隔臨場により、受発注者間の作業の効率化を実施することや、維持管理情報データベースの活用を行う。具体的には、ヘルメットや体に装着可能なウェアラブルカメラ等により撮影した映像と音声を用いた Web 会議システムを利用して、現場臨場を行うものや、整備完了後に、国の維持管理情報データベースへ施設情報を登録し点検結果を蓄積し維持管理していくこととしており、デジタル社会の形成に寄与する事業となっている。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 『ふるさと銚子』元気創造事業

内 容 ふるさと納税の寄付金を、銚子市が誇る豊かな自然・歴史・文化などの貴重な財源を活用し「ふるさと銚子」の元気を創造する事業で、下記の取組みに活用している。

・地場産業の活性化に資する取組み

【水産・農産物販拡大のためのイベント支援、銚子漁港での水揚優秀船等の表彰、廻船誘致活動など】

・環境美化やおもてなし観光の推進に資する取組み

【外国語観光パンフレットの作製、銚子みなとまつりの開催支援など】

・自然・歴史・文化等の豊かな地域資源を活かした観光に資する取組み

【銚子電鉄を活用した体験型学習イベントの実施、犬吠埼灯台のPR活動など】

・銚子ジオパーク活動の推進に資する取組み

【銚子ジオパークの活動支援】

・地域の再生可能エネルギーの活用および脱炭素化に資する取組み

【地域新電力会社「銚子電力株」の設立】

事業主体 銚子市

実施期間 平成21年～

(2) ゼロカーボンシティ銚子

内 容 2050年を見据えた脱炭素化の実現に向け、官民連携による再生可能エネルギー導入の推進、地球温暖化防止をはじめとする地球環境保全への貢献に長期的な視野で取組ため、「ゼロカ

ーボンシティ」を表明。(2021. 2. 16)

事業主体 銚子市、銚子電力(株)、(株)Loop

実施期間 令和3年～令和32年

(3) 「千葉ブランド水産物」生鮮水産物第1号「銚子つりきんめ」

内 容 立て縄漁法で一尾ずつ傷が付かないよう丁寧に釣り上げ、鮮やかな色合いと姿形が美しい「銚子つりきんめ」は、千葉県を代表する優良水産物として、平成18年に県により「千葉ブランド水産物」生鮮水産物第1号として認定されている。また、最上級品として、国内外で高く評価されている。生産者は、資源が持続的に利用できるように、操業時間、操業日数の制限や小型魚の再放流など、資源管理に取り組んでいる。

事業主体 銚子市漁業協同組合 外川支所

実施期間 平成18年～

(4) 水産物供給基盤機能保全事業

内 容 浚渫工事による漁港内の水深確保等を継続的に行うことで、安全かつ円滑な漁業活動を維持する。

事業主体 千葉県

実施期間 平成26年度～

(5) 銚子港水産まつり

内 容 例年11月上旬頃に開催され、同時開催される「きんめだいまつり」は、千葉ブランド水産物「銚子つりきんめ」の販売のほか、漁協女性部による食堂やきんめ釣りVR体験コーナーなど、人気を博している。

事業主体 銚子市、銚子市漁業協同組合、銚子市漁業協同組合外川支所

実施期間 平成27年～

(6) 国の名勝・天然記念物「屏風ヶ浦」

内 容 約310万年から90万年前の地層を観察することができる屏風ヶ浦の海食崖は、旭市の刑部岬まで10kmに渡り切り立った約20mから60mの崖が続いている。ドーバー海峡の白い壁にも匹敵するといわれ、「東洋のドーバー」とも呼ばれる景観は、本市を代表する観光名所であり、ドラマやCM、プロモーションビデオのロケ地としての利用も多い。平成28年3月には国の名勝及び天然記念物にも指定されたところである。

また、平成24年に認定された「銚子ジオパーク」の保全、活用の対象であるジオサイトの一つでもあり、多くのジオツアー客が訪れている。

現在、銚子市では「屏風ヶ浦保存活用計画」を策定中であるが、屏風ヶ浦が持つ学術的な価値を守りつつ、観光資源としての活用も推進していく。

事業主体 銚子市・銚子ジオパーク推進協議会
実施期間 平成28年3月（名称及び天然記念物指定）

(7) イルカウォッチング

内 容 銚子市沖は黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場が広がることから、豊富な餌を求めて野生のイルカやクジラが集まる絶好のウォッチングポイントになっており、クルージングによるウォッチングツアーは本市の人気の観光メニューである。

また、ウォッチングツアーを実施している(有)銚子海洋研究所は、海洋ゴミ回収プロジェクト活動を開始し、令和3年8月には「一般社団法人Ocean Life Community 14」を立ち上げ、イルカやクジラ等の海洋生物の安全を守るとともに、海洋ゴミの回収や、地元海水浴場を中心にビーチクリーンの啓発活動を行っている。

これらの活動は、SDGs（目標14）「海の豊かさを守ろう」学習を通じた教育旅行にも寄与している。

事業主体 (有) 銚子海洋研究所
実施期間 平成27年10月～

(8) スポーツ合宿誘致を核とした「スポーツタウン」ブランディング事業

内 容 廃校になった旧銚子市立銚子西高校をスポーツ合宿施設「銚子スポーツタウン」としてリノベーションすることにより、スポーツツーリズムという新たな地域資源を創出し、交流人口の増加を図っている。高校や大学のスポーツ合宿の受け入れだけでなく、鹿島アントラーズや千葉ジェッツといったプロスポーツチームによるサッカー、バスケットボールクリニックの開設、銚子市出身の元プロ野球選手木樽正明氏による社会人野球チームのホームグラウンド、リオ五輪トライアスロン日本代表の加藤友里恵氏によるトライアスロン教室なども実施し、地域の総合スポーツクラブとしての役割も果たしている。

昨今では、コロナ禍による合宿客の大幅な減少など、非常に大きな影響を受けているが、新たな切り口として、シーカヤック事業者と連携し、個人向けのマリンアクティビティを活用した体験観光メニューを創出して新規顧客の開拓につなげている。

事業主体 (株) スポーツタウン
実施期間 平成29年1月～

6 計画期間

令和5年度～令和9年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画終了後に千葉県及び銚子市が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データは、経済・漁業センサスのデータ及び銚子市公表の統計データ等を用い、評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	令和3年 (基準年)	令和6年 (中間年)	令和9年 (最終目標)
目標1 銚子市における観光入 込客数の増加	1,748千人	2,000千人	2,400千人
目標2 外川漁港における漁 獲量の確保・維持	553t	553t	553t

(指標とする数値の収集方法)

項 目	収集方法
銚子市における観光入 込客数の増加	銚子市の統計データより
外川漁港における漁獲 量の確保・維持	銚子市漁業協同組合外川支所へのヒアリングよ り

・目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を、速やかにインターネット（千葉県のホームページ）により公表する。